

第4回「市川森一脚本賞」、選考経過のご報告(概略版)

2016年3月31日

選考委員長 菅野高至

☆候補者の選出

2015年1月1日～12月31日に配信放送された映像ドラマから、選考担当の菅野が11人の候補者をリストアップし、市川・渡辺・高橋・小林・辻の理事5人と菅野とで、下記4名とその対象作品を選ぶ。

〈選考の基準〉は例年通りで、プロデビュー10年程度以内で、オリジナル作品を執筆し、受賞を機に将来さらに大きく伸びると期待される人で、「市川森一」の名にふさわしく、〈物語性〉や、〈夢・異空間〉、さらに〈挑戦〉しているか否かを考慮する。

☆候補者と対象作品名（放送順）

・高橋 悠也（たかはし ゆうや、1978年生まれ）

NHKBS・プレミアムドラマ「ラギッド！」（89分×全2回、2/21～）

・足立 紳（あだち しん、1972年生まれ）

NHK・創作テレビドラマ大賞「佐知とマユ」（50分、3/17）

・安達 奈緒子（あだち なおこ、1971年生まれ）

フジテレビ・土曜ドラマ「She」（25分×全5回、4/18～）

・加藤 綾子（かとう あやこ、1972年生まれ）

フジテレビ・土曜ドラマ「トランジットガールズ」（25分×全8回、11/7～）

☆選考委員の交代と新任

今江夏木（TBSテレビ）氏から、社内異動による辞退の申し出があり、新たにTBSの高成麻畝子氏に委嘱し、さらに新任として、テレビ東京の岡部紳二氏に委嘱し、計六人の選考委員となる。

☆選考委員

倉内 均（くらうち ひとし）	株式会社アマゾンラテルナ	代表取締役会長
次屋 尚（つぎや ひさし）	日本テレビ放送網株式会社	制作局プロデューサー
森安 彩（もりやす あや）	株式会社共同テレビジョン	第1制作部プロデューサー
岡部 紳二（おかべ しんじ）	株式会社テレビ東京	編成局次長兼ドラマ制作部長
高成 麻畝子（たかなり まほこ）	株式会社TBSテレビ	制作局ドラマ制作部プロデューサー
菅野 高至（すがの たかゆき）		プロデューサー

☆選考会の報告(概略)

3月12日（土）夕方より、事務局隣の会議室で選考会が行われた。議論は「ラギッド」「佐知とマユ」「She」の3作品に集中し、最終的には、「佐知とマユ」の足立紳さんと、「She」の安達奈緒子さん、お二人に絞られた。議論は三点――（1）「佐知とマユ」は一般公募の脚本賞受賞作、市川賞として成立するか否か、（2）足立氏は、ヨコハマ映画祭脚本賞と日本アカデミー賞最優秀脚本賞を受賞して、ある種ブームだが、便乗したと受け取られないか、（3）NHKの単発オリジナル枠と、

民放の編成主導の連ドラ枠が、同じ土俵で議論しうるのか——であった。また、「この脚本賞をどう捉える」が議論になり、渡辺理事より「市川賞に、市川さんらしさの作風だけを意識しないで下さい。本人はもとより、ドラマ界への期待も込めて、創作の志と強さで選んで欲しい」との提案があった。

議論の末に、「佐知とマユ」の脚本は抜群の仕上がりで、足立さんには、人物の多彩な表現力と巧みな構成力が備わり、次代を背負って活躍できるものと高く評価され、全員一致で、理事会報告の受賞候補者に決まる。

☆第4回の受賞者・足立 紳(43才)

日本映画学校卒業後、相米慎二監督に師事。助監督、演劇活動などを経てシナリオを書き始める。

2012年、第1回松田優作賞グランプリ脚本「百円の恋」が、2014年に映画化され、同作品で第17回菊島隆三賞、第39回日本アカデミー賞最優秀脚本賞を受賞。

2013年、第38回創作テレビドラマ大賞受賞「佐知とマユ」。

2015年、映画「お盆の弟」で第37回ヨコハマ映画祭脚本賞受賞（「百円の恋」とあわせての受賞）。

他の映画作品に「スクールガール・コンプレックス～放送部編～」(2013)、

「モンゴル野球青春記」(2013)、「童貞放浪記」(2009)、「キャッチボール屋」(2005)など。

テレビドラマ作品に「いつかティファニーで朝食を」(2015日本テレビ)

なお、今年2月に初の小説「乳房に蚊」(幻冬舎)を刊行。